

AsiaWave

vol.174

2

ラオス写真館
広田直樹

ルアンパバンの美女

5

特集 インタビュー 青木純一に聞く
アモイ、
学園都市は楽園都市

あじあ航海記
環日本海フェリーで出かけよう!
2009

金丸知好...9

16
Life&Culture

甘・辛・新鮮! 飲み物特集
桂川唯香
バンコクでムエタイ観戦
中国タカラ
書評「バンコクバス物語」
西洲奈みつほ
映画「エンブレ」『チェイサー』
中川昌俊
カンボジア ポルポト派を裁く
特別法廷が開廷

詩

「夕暮れに」

田中真由美

11



音楽紀行

タイ庶民の音楽 ルークトウンとモーラム

そむちやい吉田

12

ある画家のコレクションの
インド民俗絵画から

黒川妙子

インド民俗絵画が広まるきっかけをつくったバスカール・クルカルニという人は、豊穣や家族の繁栄や健康を祈るために、農村の女性たちが代々、壁や床に描いてきた民俗絵画に強く惹かれた。そしてビハール州のミティーラ地方の女性たちに紙をわたし、紙の上に描くことが始まった。このクルカルニ氏がある時、西のムンバイから東のベンガル州のシャンティニケタンまで自転車にのってやってきて、画家のラマチャンドラン氏と親しい友人となり、民俗絵画の存在を教えたのであった。

そしてこれらの民俗絵画コレクションを通じて、ラマチャンドラン氏は民俗絵画が、普遍的な視覚イメージの力を強くもっていることを実感していた。このため後に日本の子ども達のための絵本を作る際に、インド文化になじみのない日本の子ども達にも伝わるような視覚世界は何かと考えた結果、ラマチャンドラン氏は、民俗絵画の表現方式を用いて、新しい絵本を創作したのである。これは単に個人の作家の絵本創造をこえて、ある視覚伝統を継承しようとする画家の挑戦で、それらを支えたのが、この民俗絵画コレクションだった。2009年5月に宮崎県木城えほんの郷でこのコレクションの展覧会が開催される。

ルアンパバンの美女

広田直樹 (ウーチエン) の ラオス写真館



モンの市場の角でフランスパンサンドを売るスーニーちゃんです。今は学校に行っているのでお店にいることは少ないです。



ルアンパバンの有名日本語ガイド、イエンさんです。



白人のお客さんが多いJomaカフェのポワンちゃんです。

サバイデイ、3ヶ月連続ラオスの美女で巻頭を飾らせてもらいます。今回はルアンパバンの美女で行きたいと思えます。

山の中の純朴な美女もいいですが、美女の国ラオスの古都であり、人気の観光地のルアンパバンは当然美女の宝庫です。

この写真は、ここ9年くらいのもので、適齢期の早いラオスでは、撮らしてくれた子の中には結婚しお母さんになった子もいますが、みんな魅力的な笑顔を見せてくれています。



ルアンパバンのディスコ、ムアンシアの歌姫
ルンちゃんです。今はもう一児の母になっちゃ
いました(涙)

ルアンパバンを訪れるとナイトマーケットや街中のカフェ
や屋台で、彼女たちのような素敵な笑顔に出会えること
間違い無しです(笑)なんて言ったらって美女の国ラオス
から。
さて、また新しい笑顔の美女を探しにカメラ担いでラオス
に行ってきます(笑)
ポップカンマイ(またお会いしましょう)



Jomaカフェのケイちゃんです。なぜかア
イドルチックです(笑)



10年位前、モンの市場のアイドルだったスーニ
さんです。今は二児のお母さん。



Jomaカフェの看板娘ケイちゃんです。



ナイトマーケットでスリッパを売っているスーさんです。妙に色っぽいです(笑)

インド・ネパール・アフガニスタン・バリなどなどから
はるばるやってきた衣料品・織物・アクセサリ・
楽器・CD・DVD、、、が皆様をお待ちしております



<http://www.harubaruya.com/>

180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-8-3 コスモビル 2階

Phone & Fax. 0422-21-4790

渋谷アマリタ Phone & Fax. 03-3461-6563

吉祥寺別館 Phone & Fax. 0422-22-2433

☆はるばる屋通信☆

★春物衣料品の入荷始まりました★

お得をゲットするチャンス

【何かが半額】セール!

毎月第3土曜日と翌日曜日の2日間、
何かが半額になります。

「何か」は、ネットでは前日、
店頭では当日お知らせいたします。

ネットでのお買物もお楽しみください!



僕ワーチェンとスーニーです。やっぱり怪しいです(笑)

インタビュー 文芸評論家・青木純一に聞く

アモイ、学園都市は楽園都市

昨年秋から中国南部の都市アモイに、大学で日本文化を教えるために滞在している文芸評論家の青木純一氏に、向こうでの生活や環境、そして中国の最近の動きについてじっくりとお聞きした。

ぐらいいい気持ちはありますね。南国は居心地がいいんです。

——アモイに渡ったいきさつは？

知り合いの評論家の倉敷茂さんが2年ほどアモイに住んでいるのですが、日本に一時帰国されたとき、ある中国人のパーティに連れて行ってくれたんです。その中国人の方が大使館の人物だったようで、住んでるマンションはもう治外法権みたいな感じで（笑）。そのパーティの席で僕が、パート先が近く消滅するので生活に困りそうだと言ったら、じやあ中国においてよという話になって。半年間くらいでとんとんと決まっちゃいました。去年の3月にアモイに模擬授業に行つて、ここならいいな、と。僕は実は海外はこれをはじめてなんです。

——契約期間はあるのですか？

向こうは1年ごとの契約ですが、5年間までは保証されていたと思います。

——5年間フルにやるおつもりですか？

できたら晩年は中国の南で暮らしたい

——しかし行く前は不安もあったのでは？

あまりなかったです。中国語ができないということだけですね。アモイの町を見た瞬間に、これは素晴らしいと思えました。中国のなかでも特殊な都市のようです。綺麗ですよ。日本の神戸に似ている感じがします。港町でさっぱりしているというか、僕は神戸育ちなので気に入りました。島の町ですからもろに海に囲まれています。

——大きな島なんですか？

そんなに大きくないですよ。目の前に台湾が見えます。

——国際都市としての歴史があるのですか？

アモイはアヘン戦争の時に中国がイギリスから開港を迫られてはじめて開けた場所らしいです。これはアモイに住んでいる人から聞いた話ですけど、イギリス



人が来てみたら、港とはいえ貝とか魚とかばかり獲っているただの田舎の漁港じゃないかと怒って、別の港をよこせと言って第二次アヘン戦争が起こったなんて話もあります。当時から田舎っぽいやうか純朴なところがあつたようです。今はかなりリゾート地開発みたいなきんげいで、あと大学がありますから学園都市と、その二つの方向に進んでいるように見えますが、どこかのんびりしています。なごやかです。あと、外国人に馴れています。もともと台湾との貿易が盛んな場所だったらしいです。閩南方言もときどき聞かれます。経済特区ですし、中国南部の広州とかと本当は並ぶべき都市なんですよ。うけど、広州や上海のようにはぎらぎらしてない。歳をとつてから暮らすといいですよみたいなことを中国の人も言います。治安もすごくいいです。僕はまだ一度も危険な目に遭つたことはありません。タクシーの運転手とか店の人も真面目で、お釣をごまかすとかそんなのは絶対にない。安心できます。いま



アモイの浜辺。海水浴もできる。



青木純一（あおき・じゅんいち）

文芸批評家。1964年、兵庫県生まれ。早稲田大学大学院博士課程修了。「法の執行停止 森鷗外の歴史小説」で第44回群像新人文芸賞評論部門受賞。メールマガジン「ハトポッポ批評通信」発行人。主に文芸誌、論壇誌等で書評を中心に執筆している。「いまからここで」では主にテキストに関するアドバイザーの立場から河崎氏をサポートしながら、自身も朗読パフォーマンスに参加。

「ハトポッポ批評通信」<http://archive.mag2.com/0000206311/index.html>

ブログ版「ハトポッポ批評通信」

http://blogs.dion.ne.jp/hatopoppo_critic

最近の執筆記事より「ネオリベ発・「左畜」経由・管理テクノロジーへの対抗言語 笠野頼子 vs. ロジスティック」（「論座」2208年6月号）

<http://publications.asahi.com/ronza/story/200806.shtml>

——学生の雰囲気、行動はどうですか。
日本の大学生に比べるといきいきしているし、ちよつと子供っぽいといつてもいいかもしれないですけど、活気がありません。シニカルなところが少ない。しかし抱えている悩みは日本と同じです。インターネットが盛んですから情報は何でも

——アニメとかはテレビでやっているんですか。
やっています。僕なんかより詳しいです。オタク文化は中国も韓国も、東アジア共通になっています。
——半年回りで働いたら疲れたんじゃない

の東京よりは気楽かもしれないですね。中国らしくない中国だという人もいます。でも一昨年から、XP工程という非常に危険な作業を行う工場がアモイに建設されそうになったとき、携帯メールを通じて市民が連絡を取り合ってたデモを行い、工場建設を取りやめにさせたそうです。この話は、社会的な影響力を持った市民運動として中国では有名な話。普段は政治的な雰囲気を感じられない都市ですが、いざ街を守るためとなると市民の結束力は強いようです。市民がアモイを非常に愛しているのでしょう。

——中国語は勉強したんですか。
まったくしていません。事前にすこしやっておこうかと思っただけですけど、行く直前がむちゃくちゃ忙しくて。いま、アモイ大学の卒業生の方について勉強しているんですが、しゃべれないですね。発音が本当に難しい。四声も、子音の発音もむずかしい。僕はフランス語やドイツ語もやってきましたけど、それらとはこつがちよつと違うんです。向こうの耳とこちらの耳と全然感覚が違うようで、日本人が聞き取る音と中国人が聞き取る音の要素が違うようなのです。

——それは何語で教えるんですか。
全部日本語です。3年、4年になると、ある程度日本語を理解できるので。
——日本の文化全般を教える感じですか。
茶道の授業などもあります。僕が教えているのはアモイ大学の付属の嘉庚学院というところで、割と実学系なんです。観光のための授業も多いし。会話と作文がメインですが、変わった授業も多いです。

——学生達も下宿しているんですか。
寮なんです。中国の大学はほとんどの学生が寮生活で、週末とか実家が近い人は帰宅しますが、基本的に寮なんです。授業も日本の大学に比べれば多いし厳しいです。3年生で日本語の聞き取りができるし、話せる人はかなり流暢に話せます。彼らはアニメやドラマを見て日本語を学ぶことも多いようです。アニメの声優の発音は非常にきれいだと言います。
——学生達も下宿しているんですか。
寮なんです。中国の大学はほとんどの学生が寮生活で、週末とか実家が近い人は帰宅しますが、基本的に寮なんです。授業も日本の大学に比べれば多いし厳しいです。3年生で日本語の聞き取りができるし、話せる人はかなり流暢に話せます。彼らはアニメやドラマを見て日本語を学ぶことも多いようです。アニメの声優の発音は非常にきれいだと言います。

ないですか。

いや、日本で生活するほうがよほど疲れます。向こうに行ったら鬱が治りました(笑)。向こうは本当に南国ですから生活自体が楽しいんですね。皆楽しんでるところがあつて。夕方になるとわいわい外に出て食事したり散歩したりします。アモイ大学が家のすぐそばにあつて、とてもきれいで、24時間誰でも入れるので、そこでのんびりしたり。

——食事はどうしてるんですか。

この3ヶ月間はほとんど外食でした。自分ではあまり作りませんが、先日安いアワビを買ってきて刺身にして食べたりしました。魚介類は豊富なところですよ。中国の人に言わせると、外食より自分で作ったほうが安全だそうです。来学期からはある程度自活しようかと思つていきます。買物が面倒ですけど。

——冬でも寒くないんですか。

日本よりは多少暖かいですけど、ただ夜は冷えますよ。夏から突然冬になるような感じですね。どーんと温度が下がります。夏は日本の一番暑い時期がちょうど長めに続く感じでしょうか。風があるからそんなに辛くはないです。ただ日差し、紫外線は強い。皮膚がやられます。でも空は高いですし、気持ちいいですよ。海に囲まれてるんで、海風が吹いて、中国の都市部にしてはめずらしく空気がいいんです。

——面白いところに行かれたんですね。

ただ、のんびりしちゃうんですよ。学生も言いますけど、アモイに来るとのんびりしてやる気を失うと。勉強には適してないかもしれないですね(笑)。

——去年の秋から世界的な金融危機が起

こつていますが、中国の雰囲気はどうですか。

アモイは変わらないんです。アモイにいたる限りではその変化はわからないのですが、実は中国南部の都市部はそうとうダメージがきてるみたいです。上海に行った人から聞いた話では、ビルの建設が止まったり、とくに小さい工場がほとんど閉まったりしていると。広州あたりが一番すごいんじゃないですか。おもちや会社とかひどいそうです。内地から出稼ぎにきている人たちが失業しているようですよ。もともと経済格差が大きい国ですから、不満がたまるとはと政府も危惧してるのではないのでしょうか。

——中国国内にいて、中央政府の存在は強く意識されるんですか。

ほとんど気になりません。授業でも何を言ってもかまわない感じですし。天安門に関しては気を使うところがあるらしいんですが、僕はオバマ大統領の演説のビデオなども授業で使いました。

——日本のいた頃抱いていた中国のイメージは変わったところがありますか。

ありますね。先輩の先生は「日本は外から見ないとわからない、中国は中から見ないとわからない」ということをおっしゃっていました、その通りで、中に入らないと、エネルギーと

か、広さとか、国民の生活感覚はわからない。僕自身がどう判断していいかわつているところもあつて、ひとつは、中国は多様性を非常に好むところがあるようです。若い人たちは、少数民族が大好きだと言う。多くの民族が存在することが、楽しくて、誇りでもある。日本のメディアに入ってくるのはチベットを中心に民族対立みたいな情報ばかりですが、中国の中の人たちから見るとむしろ少数民族がいることが誇りのようですね。基本的に多様性を好む民族性なのかと考えると、自分の頭の組み替えが必要だと感じます。ただ逆に言えば文化侵略とかいうことにたいしては鈍感かもしれません。でも文化侵略という概念も欧米のダブル・スタンダードという側面がある。そのあたりをどう考えるか、難しいところです。実はあまり知られていないかもしれないませんが、今の中国政府は少数民族問題に対しては敏感です。保護も手厚い。少なくとも表向きはそう。さもないと外国から批判されますし。

また中国人が社会を考えると、「大きな家族」というイメージで捉えるところがあるようです。「家族」のイメージは日本と中国では大きく違います。今の日本では核家族のイメージが強いでしょうが、中国人の言う「家族」は、それこそ会ったこともない遠い親戚まで含むような大家族です。もちろん大家族「主義」となると、政府のプロパガンダがあるでしょうけど。民衆レベルでの大家族



「水房」と呼ばれる植物栽培用の小屋。引き出し状の箱に植物が栽培されている。



アモイの海岸にある帆のよびな装飾建築。

のイメージと政府主導の大家族主義が一致しているのか、していないのか。国家側からは同一性を求める家族主義イデオロギーでしょうけど、民衆がもっているのはもつと多様性を重視した家族イメージかもしれない。とにかく中国の歴史が大きくかわっていることは確かなので、歴史を勉強しないといけないと思います、古典から読み始めています。ただ、日本人が日本の国民をイメージする仕方からは、頭をソフトチェンジしないとイケないと思います。

あと、中国の人々は仲間を組織する、アソシエーションを作る能力が高い。そこにも家族イメージが働いているのかもしれない。相互扶助の考え方が強い。こちらが頼めば引き受けてくれるし、そのかわりこちらが頼まれる。中国では孤独に生きていくのは難しいかもしれない(笑)。とはいえ人間関係がべたべたしているわけではない、さっぱりしています。食事しながら大人数で話す習慣は残っていて、それは楽しい。中国語がストレートな言語ですので、中国のユーモアはつつこみが鋭いです。中国のユーモアを理解すると、日本から見た中国のイメージは変わると思います。

——近年、世界の大国としての中国の存在感が急速にまっています。中国自身にその点に関してなにか野望なり計画なりはあるんでしょうか。

金融危機が起こる前までは中国政府も

アメリカが牛耳る世界の中でいかに利を確保するかということを考えていたのでしょうか。ヨーロッパなどは21世紀は西から東へ地政学的にパワーの中心が移るといようなことを言い始めていますし。中国内部の人たちが地域覇権についてどう考えているかわからないですけど、生活の中で会う人たちは基本的に戦争を好む人たちではないということはおわかりませぬ。国家レベルではわかりませぬが。

——朝鮮半島の情勢に対する意識は中国ではどうですか。日本と同じように強いですか。

北朝鮮に対して日本のような敵意は持っていないでしょうね。また日本に対しては敵意はないでしょう。アモイは反日感情は薄いところだと言われています。

——台湾と似た感じでしょうか。

台湾に近いですからね。アモイから直

行便も飛んでいると思います。直行便が飛ぶようになれば、軍事的緊張はなくなりませぬ、そこに逆戻りすることはまずない。中国政府は台湾にパンダを贈ろうとしてたんですが、台湾側が保留にしている、この間やつと受け取ってもらえななうてしまったそうです(笑)。経済的な依存関係から考えて、もうぶつかるとはならないか。アモイには軍事施設もありませんが緊張はまったくありません。

——アモイの見所は、観光大使として言うところ、どこですか。

ひとつはコロンス島ですね。ピアノの島です。ピアノがたくさんあり、ピアノストがたくさん出ています。国際的なピアノストも何人か誕生しています。華僑の人が戻ってきてピアノ博物館を建てた。世界で一番ピアノ密度が高いと言われています。それからアモイからは離れますが福建省の奥のほうに「土楼」と呼

ばれる土でできた丸い皆みたいな集落があります。世界遺産になっています。それからアモイ大学。中国有数の美しい大学として有名です。僕は個人的には海辺の夜景が一番好きですね。観光で行くよりは住んだほうが面白い町、外国人にとつて暮らしやすい町です。海は町からすぐで、泳ぐこともできます。向こうの人は結婚式の時に海辺でポーズを決めて写真を撮るんです。それが見ていて面白い。勤め先の嘉庚学院は大陸側の漳州という地域にあるので船で通うんですけど、そんなに荒い海ではないです。瀬戸内海と似た雰囲気でしょうか。その漳州は暑いんです。漳州の山は日本と違って石ばかりで木がない、木陰がないので暑いですね。

——これからはアモイの外に出て旅行する計画はありますか。

機会があれば行きたい。雲南省など行ってみたいですね。



アモイの民宿

2009.2.4
写真=賀晨佼
取材・構成=池田康

あじあ
航海記

環日本海フェリー で出かけよう！ 2009

金丸知好

2006年から毎年、アジアのイチョシ船旅を紹介してきた。

さて、4年目の今年はズバリ「日本海側がウラ日本と呼ばれる時代は終わる、か」。まるで『東京スポーツ』の一面大見出しのようなテーマだが、これに注目だ。

この原稿を書いている2月22日、鳥取県境港市に、奇抜なペインティングを船体ほどこした客船が入港した。これは韓国パンスターライン社に属する「パンスター・ハニー」。昨年のアジアウエーブで、大阪と釜山3日間クルーズや金沢と釜山クルーズレポートを掲載させていただいたが、いずれもこの船に乗って行った船旅だった。

残念ながら昨年10月末をもって金沢と釜山航路は運休となり、パンスター・ハニーは日本海の定期航路から姿を消した。それからおよそ4ヶ月。再びこのクルーズフェリーは、日本海に姿を現したのである。

パンスター・ハニーが山陰の港町にや

ってきたのは、韓国の旅行会社が同船をチャーターし、韓国の東海岸にある東海（トンヘ）市を起点に境港と往復するクルーズを企画したからである。そしてこの機会を利用して、一つの試みが行われる。東海市に本社を置くDBSクルーズ



海上から眺めた鳥取県・境港港。順調に行けば5月末ごろに「イースタン・ドリーム」が初入港する。なお、橋の向こう側の山々は島根県である。

フェリー社（以下、DBS）は、東海と境港の航行時間、そして日本入国の際に行われるCIQ（Cは税関、Iは入管、Qは検疫）の体制やそれに要する時間をチェックするのだ。

DBSは境港と東海とウラジオストク（ロシア）を結ぶ国際定期フェリーの就航計画を進めてきた。日本と韓国および中国を結ぶ定期航路は数多いが、日本海を通る航路は唯一、富山県高岡市の伏木港とウラジオストクを週1便往復で結ぶロシア汽船「ルーシ」がある。しかし、どちらかといえば中古車積み込み船という側面が濃厚で、日本人の旅客が気軽に利用するといった性格のものではない。

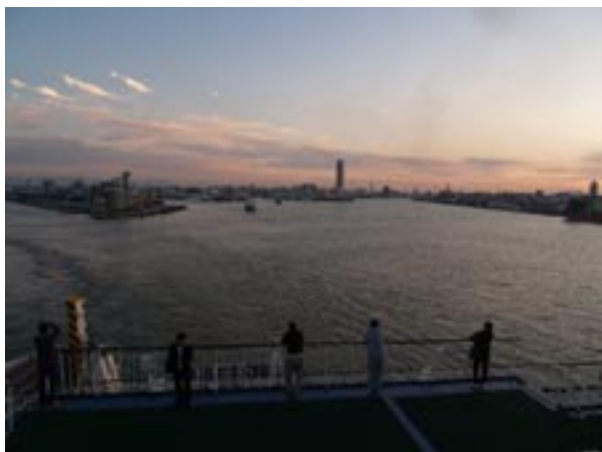
2008年6月に先述の金沢と釜山航路が東日本フェリーによって開設されたが、燃油高騰などによりわずか4ヶ月で運休を余儀なくされている。つまりDBSの航路は、ウラ日本というイメージがいまだに強い山陰と、やはりソウルや釜山に比べれば影の薄い韓国東海岸（ウラ韓国とも言うおうか）、さらには極東口

シアを結ぶ戦後初の環日本海定期航路の誕生を意味しているのだ。

この環日本海航路に就航するのはパンスター・ハニーではない。DBSは2008年末、マリックスライン（本社・鹿児島市）から鹿児島と那覇を結んでいたフェリー「クイーンコラル」（1万3000総トン／旅客定員600人／1993年就航）を買い取り、現在、改修作業を行っている。改修が終わっていないため、今回のパンスター・ハニーのクルーズに便乗するかたちで、「試験航海」と銘打ったのである。

この試験運航の前に、環日本海定期フェリーの概要も少しずつ、明確になってきている。クイーンコラルは改修の後、「イースタン・ドリーム」と命名され、早ければ5月末にも本格就航する予定。DBSは、日韓間にすでに就航しているフェリーから換算して、貨物は最低でも年間8000TEU（1TEUは20フィートコンテナ1個分の積載量）のふりかえを期待し、旅行者も年間4万2000人見込んでいる。境港市のある鳥取県は2月20日、境港と東海とウラジオストクを結ぶ定期航路について、就航当初の経済効果を明らかにした。DBSの事業計画に沿って試算した結果、物流や外国からの観光客の流入に伴う直接、間接の経済効果は1年目が約60億円、2年目は約83億円と推計されるという。

イースタン・ドリームを受け入れる境港市も、航路開設にあわせて2月中旬に



日本海横断フェリーがやってくる予定の新潟港は信濃川河口にある。佐渡島、北海道・秋田・敦賀（福井県）とフェリーで結ばれている。



韓国初のクルーズ客船「パンスター・ハニー」。4月から大阪・神戸～釜山航路に就航する可能性もある。



伏木港に停泊する「ルーシ」。景気後退と円高、さらに今年からロシアが輸入車にかかる関税を引き上げたため、この中古車輸送船にも影響が出始めているという。

金丸知好（カナマルトモヨシ）

富山県生まれ。早稲田大学在学中に神戸から上海へ「鑿真号」で渡って以来、船旅のオモシロさにはまり、日本国内や韓国・中国・台湾・ロシアなど外国行きのフェリーに乗船すること多数。稚内からフェリーで訪問したサハリンの見聞録「北緯47度の忘れ物」で徳間文庫10周年記念ノンフィクション大賞を獲得し、以後、船旅をベースにした「航海作家」活動に入る。クルーズ客船で五大陸と五つの海洋をめぐる経験を生かし、雑誌「クルーズ」（海事プレス社）で「世界の港町、歴史海道をゆく」を連載。また、今年1月に新刊「超実践的クルーズ入門」（中公新書ラクレ）を発表。船旅専門ブログ「航海作家カナマルトモヨシの船旅人生」も2月で1周年を迎え、船旅に対してもますます情熱的に活動中！

<http://rohnin1966.at.webry.info/>

国際旅客ターミナルを竣工させた。境港貿易振興会が大阪市内で開催した「境港利用促進懇親会『大阪』（2月18日）で、環日本海定期フェリーの予定スケジュールを次のように発表した。

月・東海（入港9時／出港15時） ↓火・ウラジオストク（13時／20時） ↓水・東海（14時／19時） ↓木・境港（9時／19時） ↓金・東海（9時／19時） ↓土・境港（9時／日19時） 境港は東海と週2便の14時間で結ぶ。東海↔ウラジオストクは週1便。

気になる旅客平均運賃は、以下の通り。

▽境港ー東海間の旅客運賃は平均96ドル（約8800円）

▽東海ーウラジオストク⇔同170ドル（約1万6000円）

▽境港ーウラジオストク⇔同266ドル（約2万5000円）

ところで、環日本海定期フェリーは、単なる移動機関ではない。

これまで日本海に国際航路がなかったのは、国際的に孤立を深める北朝鮮とその核兵器保有・北朝鮮による日本人や韓国人拉致問題・朝鮮半島の分断・領土問題を抱える日本と韓国（竹島問題）そして日本とロシア（北方領土問題）・日本とアジア諸国に厳然と横たわる歴史認識問題・日本海（韓国は「東海」を主張）の呼称問題など、国際協力の枠組みをつくるにはさまざまな難題が山積しているからであった。

こうした「冷戦の負の遺産」が残る環日本海地域において日本、韓国、ロシアさらにはウラジオストクから近い中国が共同で手を携えることは、ある意味画期的なことだ。その第一歩が環日本海定

期フェリーだ。日本海を舞台に貨物だけでなく人間の移動もこの船を契機に増加することで、眠れる地域として放置されたままであった環日本海にさまざまな影響を与える可能性もある。

実は昨年末、日本・韓国・中国・ロシアの4カ国が合弁企業「北東アジアフェリー」（本社・韓国の東草）を設立している。その目的は新潟とロシア・トロイツァ（中国の東北地方から100キロ以内）に位置する）、韓国・東草を結ぶ日本海横断航路の開設を目指すことである。そしてこの3月末に正規の貨物運ぶフェリー運航を決めた。フェリー運航は旅客や貨物の運賃を取るなど営業運航を見すえたかたちで行う。トロイツァでロシアや中国の旅客と貨物を載せ、新潟を経由して東草へとV字航行する。1万5000トン級の専用貨客船が確保できれば、早くて5月の就航を目指すという。

境港を含む環日本海定期フェリーと、新潟を含む日本海横断フェリー。2009年夏までに2つの新規航路が日本海を舞台に誕生する可能性がある。そして、これらが「日本海はもはやウラ日本ではない！ 国際性をもつ21世紀のオモテ日本だ」と呼ばれる時代を演出するかもしれない。筆者も、北東アジアの将来を考えると、この夏は日本海クルージングに出かけようと思う。そのレポートはまた次の機会で！



ぼくの名は ナム
この村で生まれた
メコンデルタの 龍の住む島
ベトナム村と呼ばれる
マングローブが茂り
果物があふれる 観光の村で

夕暮れになると
かあさんは 戸口にてで
赤や青 緑の糸で
刺繍を始める
描かれた細かな模様を
丁寧に かあさんの指が辿る
闇がその指先を隠してしまうまで

チベットから中国 ミャンマー
ラオス タイ カンボジアを旅して
ここを流れる大河メコンの水のように
ここではいくつかの民族が
争いの歴史を刻み
幾つもの国の文化が交じり合っている

「支配と支配からの反抗の歴史」と
本には書かれていたけれど
今を生きるぼくは
この村に来るひとに
この国を楽しんでいつて欲しいと思う
ぼくができることは
それだけしかないけれど
二度と戦争の歴史に還らないために
英語を学び 韓国語を学び 日本語を学ぶ
案内をしなから この国を学ぶ

夕暮れに

田中真由美

2007.9.11 「こだま」31号掲載



観光客が
珍しそうに かあさんの仕事を覗いて
一緒に写真に納まる
そんなとき
村一番の技術を持つかあさんが
ちよつと自慢だ
ヨーロッパの文化が この国の文化となり
それを支えてきたかあさんたちを
誇りに思う

それから
細い道を切れ目なく流れる
ホンダのバイクの群れをかわし
夕暮れをこのまま歩いて
もうひとつの自慢
デルタのマングローブにだけ集まる螢の
闇の中に点滅する
季節はずれのクリスマスツリーを
見せてあげよう

ぼくの名は ナム
大好きな この村を



音楽紀行

タイ庶民の音楽 ルークトゥンとモーラム

そむちやい吉田

タイの音楽といえば誰を思い起こすだろうか。日本で一般的に一番有名なのは、タイ人歌手として唯一オリコンにチャートインしたタタヤンであろう。少し前ならゴルフ&マイク。最近ではアイ

クトゥンこそがタイ人に自らのアイデンティティーを思い起こさせているとも言えるのだ。

◆ルークトゥンとは

タイフェスティバルには、タイの歌手が来日するが、そのほとんどはアイドルかポップス歌手だ。思い切つて言ってしまうが、どんなにタイポップスと喧伝されても、それは決してタイのものではない。ただ単にタイ語で歌われているだけの洋楽だ。もちろん、タイポップスを卑下するわけでも、否定するわけでもない。ところで母国を離れているタイ人が一番に故郷を思い起こすものとして挙げているのは何だと思っただろうか。それは「ルークトゥン」と呼ばれる言わば、タイの歌謡曲なのだ。興味深いのは、積極的に海外へ進出しようとしているタイポップスではなく、あくまでも国内のタイ庶民の生活や心情を歌うルークトゥンが一番に

来ていることだろう。つまり、ルークトゥンこそがタイ人に自らのアイデンティティーを思い起こさせているとも言えるのだ。

日本ではよくタイの演歌として紹介されることも多い。実際に演歌っぽく聞かれるものもあるし、一時期は日本の演歌にタイ語の歌詞を載せたものが流行した事もあった。さらに田舎者の歌という意味から都会へ出稼ぎに来た人の望郷の思いを歌うことなども日本の演歌と共通点として見られやすいのだろう。しかし、演歌として紹介するには例外が多すぎることになる。元々、ルークトゥンという言葉が出来る以前は「ブレーション・タイ・サコーン」西洋風なタイの歌と呼ばれていた。西洋風。つまり今でいうポップスであり、日本でもいわれていたポピュラー音楽ということだ。その呼ばれ方から察する通りにルークトゥンの歴史自体は古いものではない。遡つてもせいぜい

1940年代がその発祥になる。今のタイ人も楽しむことにかけては群を抜いているが、その頃も似たようなもの。ナニか祝い事や記念日には広場に集まり、酒を飲みかわしラムウォン（輪踊り）に興じていた。当時の軍事政権がその習慣を利用して、軍部直属のスタラポーン楽団によってラムウォンで踊れる曲が多数発表されている。しかし、その演奏スタイルはジャズのビッグバンドをベースにしたものだった。現在でも耳にすることが出来る新年の歌（サワディー・ピーマイ）やロイカトンの歌などがそうだ。その後、立憲君主制を取り入れ始めたころスラポーン・ソンバッツチャルーンという、今ではルークトゥンの父を称される歌手によつてこのルークトゥンという音楽が一般に確立された。それが1960年代のことだ。

年々80年代の歌謡曲の演奏スタイルを思い起こしていただきたい。バックバンド、ダンサーそして歌手の衣装。そのどれもが非常に似通っているのだ。つまるところ、ルークトゥンを紹介する場合、「タイの歌謡曲」とすることが一番ふさわしい。

◆モーラムとは

ルークトゥンが今のスタイルに大きく変わったのは1980年代に登場した「プムプアン・ドゥアンチャン」による所が大きいようだ。彼女自身、インタビューで「わたしの音楽は、エレキトリック・ルークトゥンです」と言つた通りエレキギターなどを取り入れたことで、ルークトゥンは大きく幅を広げた。そのころ確立されたスタイルはそのまま現在にも変わっていない。未だにルークトゥンの女王として新人歌手の憧れでもあるのは、この大きな功績があるからこそである。演奏スタイルについてももう少しわかりやすくいうなら、日本の1970

ルークトゥンと並んでタイ独特の音楽として有名なのがモーラムだろう。よくルークトゥンとモーラムの違いについて聞かれるが、正確な違いを説明し理解していただくにはまずモーラムについて、キチンと知つていただかなければいけない。モーラムには、歌うということと踊るといふことの二つがある。その二つどちらが欠けてもいけないし、二つ揃つてこそモーラムである。歌と演奏、その形成過程においては、一般大衆の娯楽として年代的にルークトゥンなどよりも遙か以前から伝わつて来た伝統的側面を持つている。形状こそ違うもののケーソンという楽器がラオスやカンボジアにも広く見られることから、タイという国が形成される以前から継承されて来た民間芸能ではないかと推察できる。

踊りについては、その手と腕の使い方などから、タイの古典舞踊と同じく、恐らくはインドのラーマキエンなどの古典舞踊と同じものと推察している。話が飛躍するが、わたしは沖縄民謡や阿波踊

りそして盆踊りにもこの系譜が関わっているとも思っている。それぞれの踊り方を見れば、驚くほどに似ている事に気がつくだろう。

演奏のスタイルはその時代から少しずつ変わりながらも伝わって来ているものだが、民衆はあくまで見る側、聞く側であった。この芸能が一般人に広く普及しなかったのは、演奏のためには何年もかけて知識を学び、技能を習得しなくてはならなかったからだ。また歌詞が今のようになら固定されたものではなく、その時に応じてアドリブが多かったためということもある。このような職人わざともいべき音楽を奏でる人達のことを敬愛を込めてラムの達人、モーラムと呼んだ。

しかし、プムプアンと同じ頃には純粋なモーラムを継承することに興味を示す若者は減る一方だった。その流れを食い止めるためにモーラムは改良される。ルークトゥンや西洋音楽の要素を取り入れ、もつと一般民衆に気軽に歌えるものにしてしようと試みられたのだ。その頃に出て来たのが、バンイエン・ラーケン、ハニー・シーイサーン、ポンサック・ソンセーンそしてサーティット・トーンチャーンだ。今でこそ彼らはモーラム歌手として紹介されているのだが、彼らが歌っているのは純粋なモーラムとはいえない「歌謡モーラム」といべきものだ。もちろん、彼らには古くからのモーラムの技能はあるのだが、それだけでは誰も興味を示してくれない。時代の流れはタイ

でも同じような現象を引き起こしているようで、古き良き伝統は徐々に失われつつある。今やモーラム奏者には高齢化が進んでいるのが実状だ。

このようにモーラムには伝統音楽という側面がある。一つのスタイルにはそれぞれ名称があり「ラム・ムー」「ラム・クローン」「ラム・タンワイ」「ラム・ノクターン」など同じ曲調のものに違う歌詞を載せて歌うのだ。それが故に型にはまっけていて面白くないとか、田舎臭いなどと散々いわれ方もしている。一時期「歌謡モーラム」ができてディスコモーラムともいべき「ラム・シン」ができた頃までは、勢いもあったのだが今では何でもあるなルークトゥンに押されっぱなしの情勢でモーラム歌手のいい新人も久しく出て来ていない。以前来日して本誌でもインタビューしたジャップ・カ



ジャップ・カノクポーン (撮影：川口正志)

ノクポーンは、伝統的なことを継承しつつ新しいことにも挑戦していて、モーラム界の明日を託すには最高の逸材なのだが、ここ数年アルバムを出す気配がないのが残念で仕方が無い。

◆気になる歌手たち

ここでどれだけの字数を割いて概念的なことを申し述べるよりも、一度その歌を聴いてももらう以上にわかりやすく説明することは不可能。そこで今、わたしが個人的に気になっっている歌手たちをおすすめとして紹介しよう。

タイ・オラタイ

2002年に「ドークヤー・ナイ・パーブン」でデビューして以来、出す曲はことごとくヒットしている。最大手グラミー社のプロモートの力も大きいですが、彼女自身の歌唱力と容姿もその人気には欠かせない要素になっている。しつとりとゆつくりした曲が多い。東北部ウボン・ラチャタニー出身で歌詞もイサーン語で歌っている。彼女以降、イサーン語で歌われるルークトゥンが「ルークトゥン・イサーン」と呼ばれるようになった。



タカテン・チヨラダー

2004年テレビのオーディション番組「ファースト・ステージ・プロジェクト」でその才能を見出されデビュー。着々と人気を獲得しいまやタイオラタイと双壁を為していると言っても過言ではない。その人気が安定期に入った感があるタイイに比べ、タカテンには初々しさが感じられるのは、まるで近所のカワイコちゃん的な容姿のせいなのかも。



チンタラー・ブンラーブ

かつてバードと共演した頃の勢いは無くなっているが、彼女が歌謡モーラムやルークトゥン・イサーンを代表する歌手



の一人であることには変わりはない。近年、長年所属したマスターテープ社からRaimに移籍して心機一転を計ったばかりでもある。タイイオラタイ以前にイサーン語でルークトゥンを歌い続けて来た先駆者ともいえる。

フォン・タナストーン

ルークトゥン界きつての美女。澄んだ歌声と優しい語り口は、その美貌に勝るとも劣らない人気の要素。ウドンタニー出身ではあるがデビュー当初はステージ上でもイサーン語は使わなかった。所属するシユアオーディオ社の歌手総動員のユニット「シユア・チャチャチャー」で新境地を見出して以降、かわいいイサーン語がまた人気を呼んだ。



マイタイ・チャイタワン

小さな頃から所属し、家族同然だったモーラム楽団シアン・イサーンを離れグランミー社に移籍。その経緯は知らないが、力強い歌声に衰えることは無くソ

ロになっても人気は高まる一方だ。歌謡モーラム旗手として期待される。



パイ・ポンサトン

今シーズン、グランミー社から4作目を出しヒットチャートでも上位に入る。その容姿よりもソフトな歌声が人気の秘密か。マイクやゴットの人気が落ち着いている今、男性歌手ではバウイーとともに一番勢いがある。



バウイー

タイ南部出身の歌手が多いRaimでも一番の人気がある。中近東的なメロ

ディーを多く取り入れる他の南部出身歌手に比べて、かなりオーソドックス。しかし、ロック的な要素も取り入れて同年代の支持を集めているようだ。



マイク・ピロムポン

ゴット・チャクラパン
マイクは歌謡モーラム歌手。ゴットは正統派ルークトゥン歌手として一つの時代を牽引して来た人気歌手だ。今も人気



が落ちたとはいえないのだが、次世代を担う若手の勢いには抗いきれていない様子が見て取れる。とはいえ、ルークトゥンを語る上で欠かすことができない存在なのは今も変わりは無い。

プムプアン・ドワンチャン

ルークトゥンを聴くのなら絶対に聴くべき歌手。国民的歌手と称され、王族にも敬愛された彼女は、実は文盲だったために歌詞は全て丸暗記だったという逸話を持つ。しかし、それが故に死の直前には裏切りにあうのだが、それも多くの国民に共感と呼び伝説的存在にまで上り詰めた。今現在でもルークトゥンの女王の地位を保ち、新人歌手の憧れる存在だ。



◆バンコクでのおすすめポイント

ここで紹介した以外にも数えきれないほどの素晴らしい歌手がいるので、みなさんそれぞれにお気に入りを見つけてみてください。そして、機会を見つけてその



イサーンタウンデー（撮影：太田亨）

ステージを一度でも見れば、このような能書きなどよりもっとルークトゥン、モーラムの良さをおわかりいただけることだろう。バンコクでいつでも気軽にルークトゥン、モーラムが見聞きできる所として一つだけ紹介しよう。

イサーンタウンデー

いわゆるカフェーと呼ばれるエンタテイメントレストラン。入場料などは無く、食事代だけ。しかも安く美味しいのもポイントが高い店。わたしの著書「大人のタイ極楽ガイド」で紹介して以来、日本人客が増えているそうだがそれでも常にタイ人率95%以上。それもイサーン人がほとんどだ。禁酒日以外、年中無休だが週末ともなると立錫の余地が無くなるほどに賑やか。月に何度かプロ歌手の公演もある。詳しい場所などはわたしの著書「大人のタイ極楽ガイド」で確認していただきたい。

参考文献・まとわりつくタイの音楽

前川健一著 めこん社

★緊急告知★

数年前にmixiに作った「タイの歌謡曲ルークトゥン」というコミュニティが200人を超えた記念に初めてのオフ会を開催。興味のある方はぜひお越しを。飛び入りも歓迎ですがよければメールをください。日本では珍しいイサーンの鍋チムチュムを用意して、わたしが日本初？ルークトゥンDJに挑戦します。

日時：3月7日（土）18時から

参加費：4000円（飲み放題）

場所：タイ居酒屋ダオタイ

（03-6768-1199 東京・阿佐ヶ谷駅近く）

詳しくは、ぐるなびの地図を参照：

<http://r.gnavi.co.jp/p466000/>

問合せ：そむちやい吉田

loogthungthailand@gmail.com

そむちやい吉田（そむちやい・よしだ）

著書に大人のタイ極楽ガイド、大人のイラスト会話タイ語などがある。在タイ7年の間にルークトゥン、モーラムにハマリタイ人の奥サンにもあきれられるほどに。

ルークトゥン、モーラムについてはブログ「ルークトゥン・タイランド！」(<http://loogthung-thailand.seesaa.net/>)を更新中。